



1位だヤッター (女子リレー)

ゆり北

第137号 (13期第 5 号)

発行・光が丘パークタウン

ゆりの木北自治会

東京都板橋区赤塚新町

3-32-4-403

電話03(3938)9181番

発行責任者 吉 柳 俊 孝

家族でたのしむ文化展

出品作品募集中!!

昨年は会場の都合で、文化展が開けませんでした。今年は左記の要領で開催しますので、ふるってご参加下さい。

日時 十一月二十五日(土)

午前10時～午後4時

十一月二十六日(日)

午前10時～午後4時

会場 赤塚新町小学校体育館

およびグリーン会場

出品部門

①絵画 (油絵・日本画・水彩画・イラストレーションなど)

話し合いの場をもちました

中学校予定地問題で

中学校予定地問題で、九月の初め、自治会長名で教育委員長に板橋区の考え方を聞かせて下さいと、文書で申し入れをしていました。

教育委員会からの返事をうけて、十月十一日、吉柳会長と対策委員、事務局の三人で、教育委員会へ出向きました。

板橋区側から教育委員会の庶務課長佐久間氏、施設係長染谷氏、の二人が応対してくれました。

区側(教育委員会)から切り出し、企画課と相談の上で出席しているが教育委員会としての立場で言えば、中学校建設を見送る方針であると言ってきました。中学校建設を見送るに至った説明では、「生徒数の減少と赤塚三中が体育館とプール建設に着工して運動場を広げているので、中学校は赤塚三中で補える。」
それと、「一三、〇〇〇㎡の土地を取得するには財政負担が大きい。一



ゆり北堂々の入場行進!

- ②書
 - ③写真
 - ④工芸 (彫刻・彫塑・陶芸・織物・染め物・金工など)
 - ⑤手芸 (編み物・パッチワーク・洋裁・和紙細工・人形など)
 - ⑥生け花・盆栽
 - ⑦8ミリ映画・ビデオなど
 - ⑧ごみアート
- 小・中・高校生の出品も歓迎しています。

十月半ばに出品予約票のチラシを配付する予定です。

三、〇〇〇㎡だと80億円以上かかる。企画課の方も用地買収はむづかしいと言っている。」というものです。

自治会側としては入居時に、中学校新設の期待をもっていた。二・三年のうちに建つと思っていた。通学路が2km以上ある赤塚三中に通って運動場が広がるからといって、将来も距離が縮まるわけではない。中学校の通学区域は、一・五km以内が適当とする考え方にも反する。

区側は、財政難を繰り返して、公団の所有地になっているとの見解ですが、土地については住民としても言い分があります。都市計画の一環としての位置付けがある以上、財政難は理由にならない。もともと大蔵省の土地で公団は管理を任されているだけである。公団所有といっても公団が勝手に処分できる土地ではない。これをうけて、区側は金額的に相当になると頑な姿勢をのぞかせまし

環境防災ミニ・レター③

地震が起きたら……

- ① 室内の安全な場所に移動し、揺れのおさまるのを待つ。
- ② 火気を止める。初期消火をする。
- ③ ドアの点検。出口を確保する。
- ④ ポリタンク・バケツ、風呂などに水を貯める。
- ⑤ 正しい情報を得る。
- ⑥ 身軽で安全な服装に着替える。
- ⑦ 避難するときは、ガス・水道・熱供給の元栓を閉鎖し、電気ブレーカーを落とす。
- ⑧ 避難先・連絡先を掲示し、避難する。

隔壁板を破って隣に逃げる。
※近所に避難の困難な人がいたら援助する。様子を確認し、防災組織に連絡するだけでもよい。

日頃の備え

- ① 家具の固定・寝る空間には物を置かない工夫
- ② 玄関の整理・整頓
- ③ 非常食の用意 (最低1週間分位)
- ④ 水の用意 (1日1人3ℓ必要)
風呂に水を貯めておく
- ⑤ 燃料の用意 (1ヵ月分位)
- ⑥ 消火器や工具の用意
- ⑦ 非常用持ち出し袋の用意

ゆり北防災訓練へのお誘い

最近、新聞やテレビで地震に関する情報を見聞きすることが多くなりました。いつ災害が起こっても備え

さえあれば大丈夫、と言われていますが、物は蓄えられても不安感はありません。心に備えを持つには、ある程度の防災訓練の体験が必要になります。何度も訓練を繰り返し、経験して覚えて行くことによって恐怖心は次第に克服できるのではないのでしょうか。

今回は一度は経験していただきたい訓練を用意しました。秋晴れの日、お子様と一緒に楽しくやりましょう。大勢の皆さんの御参加をお待ち致します。

記

日時 十一月十二日(日)

午前10時より

会場 赤塚新町小学校校庭

訓練内容等 応急救護・初期消火(消火器)



古代米の刈りとり (記事は次号で)

へお詫びと訂正
先月号で昨年の運動会の順位が、十二団体中五位としましたが六位の間違いでした。

大勢集った運動会 残念ながら七位でした

輝いている
ゆりの木団地

十月十日体育の日に区民運動会があり参加者多数のうち天候にも恵まれ、みんな和気あいあい自分大好きな種目に参加して楽しく過ごしました。特にゆりの木団地の人達の足の速さはピカ一、カモシカのように見ている私達の目を走り去っていききました。男女共にリレーは上位入賞これが点数になれば一位まちがいないでしたが残念なことにリレーは点数には入らないそうです。それでもそれぞれがんばって十二町会中七位でした。運動会に参加して下さった方達どうもお疲れ様でした。また来年も大勢で楽しませようね!!

いつまでも少年の
気持ち忘れずに

二年半前にこの団地に越してきて二度目の運動会。それまでは他の町会でも出場していました。毎年、この時期になるとワクワクするのは、私だけでしょうか。間違いなく、体育会系のうちの家族は、そっだと思えます。「商品稼び」「運動会荒らし」とまで、汚名(?)をきせられたらしょうがない。やるしかない!!高校時代、陸上部で鳴らしてきたこの足で勝負。だが年齢と共に衰える一方。変わらなないのは体重だけです。ふと周りを見れば、現役の大学生。昨年、ゆり北は十二町会中六位、という好成绩でした。今年はずっと上位を...と願っていたのですが、最初の「人工衛星」で躓いてしまいまた。要領はよく把握していたつも

初めて参加した区民運動会

六年 小田 啓介

ぼくは、初めてこの運動会に参加しました。

まず、ぼくの出番は徒競走でした。ゆり北チームは中学生がいなかったの、中学生の部で走ることにになりました。当然相手は中学生、ぼくだけが小学生でした。

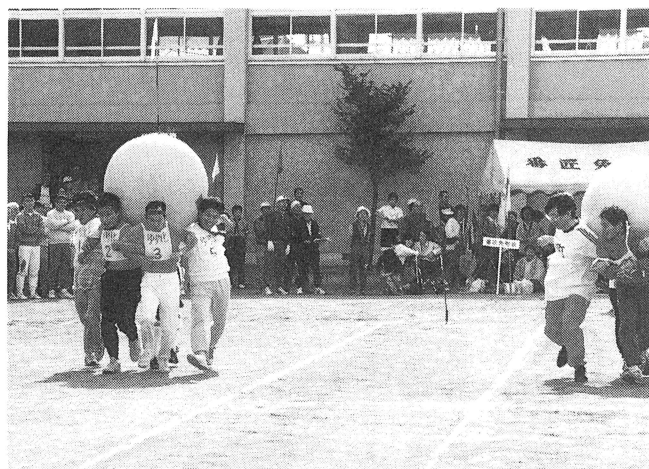


りだが、こればかりは土壇場になってみないとわかりません。運動会はそこがおいしいところである。運動会が終われば「一年が終わった」そんな気がします。他に用事があっても、こちらを優先してしまいます。「いい大人がたかが運動会」と思われるが、勝った時の自治会の方たちの盛り上がりや、「いつまでも少年」の気持ちを忘れず、これからも参加、貢献して行きたいと思えます。来年在が待ち遠しいです。



大きい声援の中、せいっぱい走りましたが、六人中四位でした。

次の出番は、一番最後の男子年令別リレーでした。五人一組のチームでぼくは徒競走の時と同じ中学生として出場しました。最後の競技だったので応援も必死です。第一走者は同じクラスの川村君でした。いよいよスタート。川村君が四位で入ってきました。ぼくは五位だと思い込んでアウトコースにかまえてしまいました。バトンが渡され、一人でも多くぬかそうと一生懸命走りました。第三コーナーの手前で一人ぬかすことができ、三位でバトンを渡しました。次の人も一人ぬき、最後まで二位を守りぬきました。この運動会に参加して思ったことは、まったく知らない人とも一つの目標に向かって心を合わせていけば思った以上に力が出せるということです。また来年も今年以上に力をつけて参加し優勝に向けてがんばりたいと思います。

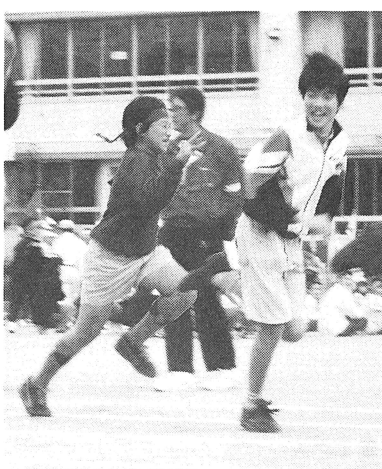


大満足の運動会

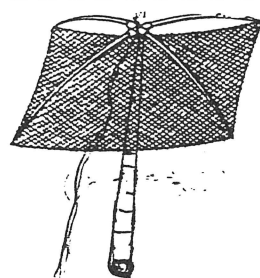
六年 浜田 祐子

私は、初めて町内会の運動会に参加しました。始めは、イヤイヤながらついていきましたが、どんどん種目をやるごとに楽しくなりました。小・中・高・大人のみなさんにまじってやるなんてちょっとイヤでしたが、みんなががんばっているのを見ると、私もがんばらなくちゃ、と思いました。

去年は、六位だったので、今度はぜひに優勝するぞ、と思ったのですが、今年は、一つおちて七位になってしまいました。でも、みんなが一生懸命やってくれたと思うと、七位という結果は、大満足です。私は、改めて、「運動会っていいな」と思いました。中学生になってもぜひ参加させてもらいたいと思います。



シリーズ⑨ 我がワシバク時代 昭和二十六年～三十年代の赤塚



魚取り

荒川にかかる笹目橋は、角材を組んだもので欄干がなく、端はところどころで腐って穴が空いていて、川が丸見えで恐かった。台風の後には、もちろん水かさが増し、橋が見えない時もあった。(新河岸川の高い土手から見た) 当時、荒川の岸は砂地で、エサのゴカイが少し掘ると探れ、ハゼはフナ竿で立ち込み(膝まで入る)で、いくらでも釣れた。他にハツ目ウナギ、ハヤ、針をいっぱいつけたダンゴでコイやフナも釣れた。

川の流が早い
橋けたから橋けたまで、約5mぐらい、泳いでつかまり、向こう岸渡る。または、ゆっくり斜めに遠回りして、泳いで向う岸に渡りスイカを失礼し、川に投げて浮き袋がわりにし帰ってくる。

荒川の土手は粘土質

大した灰色のモクゾウガニとよんでいたカニがいた。穴に棒を入れて、別の穴から出て来るのをつかまえた。甲の赤いコガニもつかまえた。

向う岸には、トロコ電車があった(線路の上に台車に乗って車輪がついている)ブレーキがないため傾斜のある所は命がけで飛び降りる。利用は野菜や砂運び(土工用の運搬

車)だったのか?
新河岸川

今のレインボー自動車教習所の先が屠殺場で、牛や豚を殺していた。川の入江はいつも血で真っ赤だった。そこに集まる魚は、ひ鯉、鯉、鮒、ウナギ、ハヤ、ライ魚、タナゴやクチボソなど小魚、小エビも入っていた。畳4枚ほどの滑車のついた四つ手網とった。四つ手網は四隅を竹で張り広げた網だ。友達の父親が成増に川魚を卸していた。ウナギ、鯉などは高い魚だったらしい。ザコ(雑)タナゴ、ハヤ、小魚は、バケツに入れ持ち帰った。



近くのひょうたん池(笹目橋近く)で溺れる

池の端は粘土や赤土で、滑って入ってしまった。もちろん泳げない。友達の手を差しのべてくれて、九死に一生、今日生きている。水をたくさん飲んでしまった。苦しかった。それから必死になって、平泳ぎや、抜き手(水面に頭と片手が出て泳ぐ、足は平泳ぎ)背泳ぎも覚えた。池の周りには藻があつて、藻エビがたくさんいた。シジミも池の周りや、浅い、水のきれいな所(湧水が池にそそいでいる)にいっぱいいました。

四号棟 西村・記